



TITLE:

平成17年度修士論文

AUTHOR(S):

---

CITATION:

平成17年度修士論文. 京都大学大学院教育学研究科紀要 2006, 52: 446-447

ISSUE DATE:

2006-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/43775>

RIGHT:

平成17年度修士論文

氏 名	論 文 題 目
荒 川 健太郎	企業の社会貢献と助成活動 ——自然科学助成から文芸助成への変化の意味
井 上 陽 子	法務教官における保安と教育 ——少年院勤務の法務教官に対する職業意識調査の分析——
大 西 由 明	小学校英語教育における文法指導のあり方 ——河内長野市立天野小学校の事例を中心に——
佐 野 泰 代	日本の職業教育協力 ——アジア諸国への協力のあり方
篠 宮 圭 爾	日本の高等教育システムの構造変動 ——大学「多様化」政策を中心に——
高 木 枝美子	高校生から見た親の期待 ——親の伝えかた・子どもの感じかた——
津 田 昌 宏	実践場面で生きる批判的思考力育成に関する研究 ——「生きる力」と国語力の強化を目指して——
樋 浦 郷 子	植民地期朝鮮における神社と学校 ——朝鮮神宮の事例を中心に——
森 島 久 幸	アメリカにおける教員の資質向上政策 ——インディアナ州を中心に——
森 田 千 幸	なぜアメリカ公立図書館ではインターネットの導入が進んだのか ——情報政策への図書館界の対応——
高 橋 典 生	科学的概念形成過程における体験と知識の相互作用
秋 吉 菜 穂	“European Identity” についての一考察 ——その理念と実態
葉 如 蘭	台湾原住民における族語教育問題
植 田 菜々子	母親が認知症になるということ ——介護する娘の語りからみる、母親との関係性の意味づけ——
大 園 博 記	欺き遂行・欺き検知スキルと協力性との関係
木 村 裕	オーストラリアにおける開発教育の意義と課題 ——学校教育のカリキュラムへの導入をめぐる——
小 西 弘 二	ボランティア活動の生涯学習的意義
宋 銀 主	日本における世代間交流活動の現状と実践的課題 ——世代間交流コーディネーターの養成問題を中心に——
平 知 宏	比喩理解における意味の活性と抑制 ——解釈の多様性と知識変容——
中 西 健 介	高校制度の多様化政策の再検討 ——価値意識と動機づけの理論に基づいて——
野 口 素 子	表情表出の誇張による情動調整の特性
前 原 由喜夫	他者の心的表象の推測における既有知識の影響と制御機能の役割に関する実験的検討
溝 口 る い	他者感情の推測における視線方向の影響
本 島 優 子	妊娠期から出産後にかけての父母の想像上の子ども表象の発達の变化を相互作用行動との関連性について
森 本 裕 子	サンクション行動に関わる諸要因の検討

平成17年度修士論文

森 本 洋 介	初等・中等教育でのメディア・リテラシー教育導入に関する批判的考察 ——カナダ・オンタリオ州を中心に——
湧 井 幸 子	トランスジェンダーを生きる当事者と家族 ——人生イベントの羅生門的語り——
梅 村 高太郎	心理療法過程における身体の否定
浦 垂 実	日記体験にみる「包み」の在り様について
大 家 聡 樹	超越性についての一考察
加 藤 奈奈子	体験と記録 ～「私」を描くということ～
小森谷 多伊子	心理療法における「かく」こと
千 秋 佳 世	自我体験をめぐる語り ——「つながり」と「へだたり」という視点からの考察——
築 山 裕 子	問題解決とはどういうことかについての一研究
辻 敦 子	W.ベンヤミンにおける遊歩的経験の語り方
西 嶋 雅 樹	心理臨床面接におけるセラピストの関与について ——迷いという現象を手がかりとして——
萩 田 菜 摘	介護という体験とそれを語ること ——認知症を抱える親を介護する娘たちの語りから——
山 本 有 恵	心理臨床における「書きことば」をめぐる
石 崎 達 也	修辞的身体としてのレヴィナス
福 田 斎	「嫌な感じ」体験における自己意識のあり方について
松 井 華 子	対人恐怖的心性について ——風景構成法作品を通して——

(合計41名)